

JA 営農情報

№349 令和6年 10月号

こまつな栽培



こまつなは、品種によりますが真冬を除いて周年栽培が可能です。播種適期が広く栽培期間が短いため、播種時期を分けることで長く収穫できます。

連作には比較的強い野菜ですが、根こぶ病が常発する場所では栽培を避けましょう。播種の1週間前までに化成肥料14-10-13のような窒素成分が高めのものを元肥で施肥し、土をなるべく細かく平らに整えてから深さ1cmのまき溝を切って1cm間隔で条まきします。手まきの場合は種が厚まきにならないように注意してください。

種まき後は薄めに覆土し、発芽するまでは不織布や寒冷紗をべたがけしましょう。（発芽したら速やかに外します。）

本葉が1～2枚の頃に1回目の間引きを行い、その後草丈が7～8cmになったら、株間5～6cmを目安に2回目の間引きを行います。間引き後、生育が良くない場合は少量追肥をしましょう。

草丈が20～25cmになれば収穫適期ですので、株元を切るか株ごと引き抜いて収穫しましょう。こまつなは生長が早く収穫が遅れると葉が固くなって食味が落ちるため適期を逃さないようにしてください。

○主な病害虫

・キスジノミハムシ

体長2mm程度の背中に黄色い筋がある虫で、葉に針で突いたような穴をあけて食害します。発生後の防除は困難なので、被覆資材や登録のある農薬を使って予防に努めてください。



・白さび病

名前のとおり葉の裏面に白色のさびのような病斑がつく病気で、主に低温・多雨条件で発生し、窒素過多になると発生が助長されます。常発地での連作を避け、被害葉は速やかに圃場外へ持ち出して処分してください。



米検査に向けて

■防除履歴の提出

当ＪＡへ玄米を出荷いただく際は、検査当日の１週間前までに水稻栽培履歴の提出が必要です。生産したお米の安全性を証明するために、各作業日や農薬の散布日など記入漏れがないよう正確にご記入ください。



■玄米重量

検査に必要な玄米の最低重量は、検査袋の重さを含めて30.3kgです。重量が不足していると検査が受けられませんので、出荷前にご確認をお願いします。

■水分量

検査時における理想の水分量は14.0～14.9%です。粳摺り後の水分調整は非常に困難なので、必ず粳摺り前に確認しましょう。また、検査時に水分が16.0%を超えた場合は検査規格外となり買取ができませんので注意してください。

※水分量が不安であれば計測しますので、営農経済センターまでご相談ください。

☆みしま館 出荷会員募集のご案内☆

当ＪＡが運営する農産物直売所『みしま館』の出荷会員を募集しています。直売所への持込が困難な方については、営農経済センターへ持込いただくかご自宅へ集荷にお伺いすることも可能です。

少量でも構いませんので自分で育てた農産物を出荷してみませんか？

詳細についてはみしま館までお問い合わせください。 *TEL：645-7100

《各種相談日のお知らせ》

	法 律 相 談 隔月第2木曜日	税 務 相 談 隔月第4金曜日	住宅ローン・資産相談 毎月第3土曜日	介 護 相 談 随 時 受 付
10月	—	25日	19日	介護に関する 無料相談受付 まずはお気軽に お問い合わせ下さい。 <u>介護支援センター</u> <u>TEL：627-7767</u>
11月	14日	—	16日	
12月	—	※20日	21日	
【実施場所】 農協会館（JA茨木市 本店）3階 小会議室 【受付時間】 午後1時～午後4時 定員は3名ですので、事前にお問合せください。 （無料でご相談いただけます） ふれあい・福祉課 TEL：627-7768 ※12月の税務相談は第3金曜日に実施します。			【実施場所】 JA茨木市 各支店	



ご利用ください

【テレホンサービス】青果物の市況をお知らせします。 TEL：641-9150
 【営農110番】栽培方法等ご相談ください。 TEL：641-9050